

みくら〜ど

JA全農えひめ情報

■特集

「トータルアグリード事業」の取り組み②耕種事業ビジネスモデル

■JA直売所めぐり

さわやか市、得々会、にこにこ市 〜Aコープ〜

6

2013・June





▶選果場風景。大洲市の共選場で、県内各地から集められた乾椎茸を統一基準で選別・出荷



▶乾燥風景。原木栽培の椎茸を、湿度を考慮し水分や色・光沢に留意しながら丸1日かけて乾燥する



▶平成22年「全農乾椎茸品評会」で農林水産大臣賞（大葉中肉の部）を受賞した成高さんの乾椎茸

乾椎茸

（肱川流域）



愛媛県は、中山間地域の基幹作物の一つとして原木椎茸の栽培が盛んで、乾椎茸生産量は全国第4位（平成22年）を誇ります。主産地の肱川流域では、気温の上昇に伴って、これから乾椎茸の出荷が最盛期を迎えます。

乾椎茸に使われるのは、原木栽培で収穫された肉厚な椎茸。コナラやクヌギなど広葉樹に植菌（椎茸菌を植え付け）してから、収穫までには約2年かかります。その椎茸をじっくり乾燥させて、風味の良い乾椎茸ができあがります。

愛媛県内のJAから集められた乾椎茸は、「全農乾椎茸格付共販事業」を通じて約27tを全国の量販店に販売しており、愛媛産乾椎茸は、形状や色、光沢、乾燥具合、規格が統一されていることから、「全農乾椎茸品評会」などで毎年上位を占めるなど全国的にも高い評価を受けています。

愛媛県椎茸同志会の成高王洋会長（大洲市）は、「山の中で美味しい清水を栄養として育ち、その[※]廃ぼだ木はまた山の栄養となる地域循環型の安心安全健康食品」と乾椎茸の魅力を語ります。同志会では、農家の技術向上をめざして県内でも「乾椎茸品評会」を毎年開催するほか、各種イベントなどで農家自らが考えた「乾椎茸を使った料理」レシピを提案し、経営安定と消費拡大に取り組んでいます。

※廃ぼだ木：全収穫（約4年間）を終えた木

あぐり〜ど

June 2013

CONTENTS

全農グループの経営理念

私たち全農グループは、
生産者と消費者を安心して結ぶ
懸け橋になります。

私たちは「安心」を3つの視点で考えます。

- 営農と生活を支援し、元気な産地づくりに取り組みます。
- 安全で新鮮な国産農畜産物を消費者にお届けします。
- 地球の環境保全に積極的に取り組みます。

今月の表紙



梅の実がたわわに実る頃、梅雨の季節もやってきます。

おばあちゃん主導の梅干しづくりは子どもたちも一緒に、洗い梅を拭くお手伝い。塩をまぶし、漬け込み、梅雨が明ければ天日干しと、手間のかかる作業もみんなで楽しく待ちわびつつ…。祖母から子へとつながっていく我が家の梅干しができあがります。

●表紙：梅干し漬け
はら ふみ(イラストレーター)

※「あぐり〜ど」は、「愛媛農業 (Agriculture)」を「リード (Lead) する」という意味と「心をつなげる (Agreed)」という意味を込めています。

農の風景Vol.150

乾椎茸

(肱川流域)

2

〈特集〉

「トータルアグリード事業」の取り組み②
耕種事業ビジネスモデル

生産と販売等トータル対策を通じて
ブランド化・有利販売を推進！

6

THE・ねっとわーく

9

統計BOX

10

ふるさと ESSAY VOL.218

五木ひろしさんとア・ラ・モード
レーモンド松屋さん

12

TOPIC NEWS

13

なんでもBOX

14

JAふるさと自慢Vol.150「直売所めぐり」

さわやか市〜Aコープつしま店〜
得々会〜Aコープ松野店〜
にこここ市〜Aコープみま店〜

16

READERS通信

NOW NOW COOKING

〈今月の素材〉 枝豆

JA全農えひめ

ホームページ

<http://www.eh.zennoh.or.jp>

■JA全農えひめ「えひめの食」企画

<http://www.eh.zennoh.or.jp/ehimenosyoku/>

※「えひめの食」では、旬の農産物情報を発信しています。

◆(株)えひめ飲料

<http://www.ehime-inryo.co.jp>

◆JAえひめアイパックス(株)

<http://www.iyokkora.jp/>

◆JAえひめ物流(株)

<http://www.jat-ehime.co.jp/>

◆JAえひめフレッシュフーズ(株)

<http://www.eh.zennoh.or.jp/ja-fresh/>

◆(株)ひめライス

<http://www.himerice.jp/>

◆JAえひめエネルギー(株)

<http://www.ja-ehimeene.co.jp>

生産と販売等トータル対策を通じて ブランド化・有利販売を推進！

J A全農えひめは、今年4月から3年間、新たに販売に重点を置いたトータル戦略「トータルアグリード事業」を展開し、担い手の所得確保と経営安定化の取り組みを進めています。5月号では、事業全体の目的・展開方策を中心に紹介しましたので、今回は、米麦・野菜花卉・果実について、ビジネスモデルの取り組み内容を紹介します。

【米麦ビジネスモデル】
優良品種への転換と高品質
安定生産、ブランド化を推進

(1) 目標

異常気象等に対応する優良品種への転換と高品質安定生産及び販売体制の確立を目標に掲げ、ビジネスモデルは、米の高温耐性品種「にこまる」、高品質で安定的な収穫量が確保できるはだか麦の「ハルヒメボシ」を設定しました。

産地導入と生産振興計画の策定を進めるとともに、優良種子の確保・安定供給、大規模経営体への契約的栽培の推進による面積確保と安定生産体制の提案、J Aと連携した大口担い手の集荷対策やJ A T A Cとの同行推進による集荷拡大、作業の効率化や省力化に向けた農機利用、基肥一発肥料や「育苗箱全量施肥（苗箱まかせ）」など省力資材の実証・普及に取り組みます。

① 「にこまる」

2月18日に愛媛県の奨励品種となった「にこまる」は、25年度550ha・890tの集荷に向けて取り組みます。

昨年は県内9 J A・41か所に実証圃を設置し、「ヒノヒカリ」に比べて成熟期が3〜11日程度遅いものの、収量は5〜10％程度の多収となり、1等比率は68・2％でヒノヒカリの47・8％を上回りました。

「にこまる」については、安全・

「トータルアグリード事業」 米麦の取り組み

米麦販売強化

【方針】 買い取り販売方式による生産者の手取り向上と代金精算の迅速化、JA系統集荷の拡大に取り組む。また、大規模経営体へ契約的栽培を促進し、生産と直結した販売チャネルの拡充を図るとともに、販売先に対し提案型企画販売を実施する。

【重点振興品目】：(米) コシヒカリ、あきたこまち、
ヒノヒカリ
(麦) はだか麦 (マンネンボシ)

【重点対策品目】：(米) にこまる
(麦) はだか麦 (ハルヒメボシ)

— 米麦(面積・集荷)の目標(平成25～27年) —

米(生産面積)	15,300 ha	⇒	15,300 ha
米(集荷量)	16,000トン	⇒	16,000トン
はだか麦(生産面積)	1,700 ha	⇒	1,700 ha

— ビジネスモデル取組の考え方 —

・異常気象等に対応する優良品種への転換と高品質安定生産及び販売体制の確立を目指す。

— ビジネスモデル品目目標(平成25～27年度) —

・にこまる	(生産面積)	550ha	⇒	1,000ha
	(集荷量)	890 t	⇒	1,620 t
・ハルヒメボシ	(生産面積)	11ha	⇒	150ha
	(集荷量)	35 t	⇒	480 t

生産資材部門による
課題解決への提案

TAC県域チームによる
部門間調整

縦横のつながりを重視した実直な現場対応力強化

JA営農・販売・購買担当者ならびに
JATACによる現場対応



▲にこまる

安心、高品質・良食味の県産ブランド米としてブランド化を図るとともに、市場評価を早期に確立するため、生産・販売取り組み方針では、県基準から化学農薬・化学合成肥料を3割以上削減したエコ栽培体系の確立を掲げています。

平成25年度は、安全・安心、良食味のブランド米として、消費者からの認知度向上に向けたPR活動を行うことにしています。

② 「ハルヒメボシ」

「ハルヒメボシ」は、今年の4月28日に産地品種銘柄となりました。25年度11ha・35tの集荷目標を掲げています。

主力品種の「マンネンボシ」より収穫期が早い「ハルヒメボシ」への転換に向けて、平成25年度は、産地実証試験や導入に向けた振興計画の策定に取り組みます。6JAで実証圃を設置し、品種特性の把握、地域における適応性、慣行品種に対する優位性などの検証に取り組みます。

【野菜・花卉ビジネスモデル】
きゅうり・いちご・里芋の
有利販売・販路開拓を推進

(1) 目標

愛媛県内で広く栽培され、取扱量が多く特に重要な品目として、「きゅうり」「いちご」を設定。高品質安定生産及び県域品質統一を整備し、有利販売を目指します。

また、東予地域をモデルとした「伊予美人」の生産・販売体制を普及・拡大し、高品質安定生産に基

「トータルアグリード事業」

野菜・花卉事業の取り組み

野菜・花卉販売強化

【方針】地域特性を活かしたブランド化を図り、愛媛チームによる県域販売の取り組み強化を展開するとともに、業務加工用需要に対応するための体制整備に取り組む。

【県域戦略品目】：トマト、なす、ピーマン、たまねぎ、
レタス、ブロッコリー、デルフィニウム、
トルコギキョウ

【重点対策品目】：きゅうり、いちご、里芋

— 野菜・花卉(企画販売・直販)の目標(平成25～27年) —

企画販売 H25：220,000千円 ⇒ H27：250,000千円
直 販 H25：252,000千円 ⇒ H27：290,000千円

— ビジネスモデル取組の考え方 —

- ・愛媛県下広域で栽培され、取扱量が多く特に重要な品目として、高品質安定生産及び県域品質統一化を整備し有利販売を目指す。
- ・東予地域をモデルとした「伊予美人」の生産・販売体制を県下JAへ普及・拡大し、高品質安定生産に基づくブランド化を目指す。

— ビジネスモデル品目目標(平成25～27年度) —

・きゅうり	(生産) 100ha ⇒ 100ha (販売) 7,000 t ⇒ 7,100 t
・イチゴ	(生産) 30ha ⇒ 32.5ha (販売) 1,200 t ⇒ 1,300 t
・さといも	(生産) 100ha ⇒ 115ha (販売) 2,100 t ⇒ 2,300 t

生産資材部門による
課題解決への提案

TAC県域チームによる
部門間調整

縦横のつながりを重視した実直な現場対応力強化

JA営農・販売・購買担当者ならびに
JATACによる現場対応

① きゅうり
づくブランド化を目指します。

病害虫防除対策や新規生産者の確保や増反等の取り組みにあわせて、栽培講習会で栽培技術の高位平準化に取り組みます。

販売対策としては、きゅうりプロジェクトをはじめ期間固定値決め等を通じた愛媛産の売り場確保、加工業務向けの下位等級品の契約など安定価格の確保と価格の下支えに取り組みます。

② いちご

いちごは、健全な定植苗の安定確保の実施、軽量規格(270g)によるkg単価の向上や作業効率化(簡素化)、反収と系統出荷率の向上、業務・加工需要への対応による販路開拓・拡充を進めます。

③ 里芋

里芋「伊予美人」は、全期マルチ栽培や生分解性マルチへの移行、一発肥料等によって省力化を進め面積

拡大に取り組みます。

今後の数量拡大を見据え、新規販売先や既存販売先への販売強化、親芋や規格外品目の業務・加工需要への販路開拓進めていきます。

【果実ビジネスモデル】
愛媛オリジナル品種
「紅まどんな」「甘平」の
ブランド力向上と販路拡大

(1) 目標

愛媛オリジナル品種の「紅まどんな」「甘平」をビジネスモデル品目に設定し、ブランド化に向けて、高品質安定生産及び愛媛チームとして販売体制の確立を目指します。

生産対策としては、①各技術部会における試験実施を通じて、施肥・防除・栽培技術の確立、②面積及び生産量等の適地適作を基本とした規模拡大推進、③適地での点滴灌水装置及び簡易施設等の効率的な施設化による高品質安定生産の推進に取り組めます。

販売対策としては、①目揃え会等の実施を通じて選果基準に基づいた品質統一を行うとともに、統一段階ボールによる愛媛チームとしての販売

「トータルアグリード事業」 果実事業の取り組み

果実販売強化

【方針】産地に応じた生産振興計画に基づき、愛媛県産果実を消費者により定着させるための時期ごとの品種リレー販売を行うとともに、企画販売及び直販等を行い有利販売に努め、タイムリーな消費宣伝等の販売戦略を展開する。

【基幹品目】：宮川早生、南柑20号、ポンカン、
宮内伊予柑、不知火、キウイフルーツ、柿

【地域振興品目】：レモン、はれひめ、はるみ、はるか、
八朔、ひめのつき、せとか、清見、
河内晩柑、タロッコ、カラ、栗

【重点対策品目】：紅まどんな、甘平

— 果実(企画販売・直販)の目標(平成25～27年) —

企画販売 H25：400,000千円 ⇒ H27：450,000千円
直販 H25：568,000千円 ⇒ H27：760,000千円

— ビジネスモデル取組の考え方 —

- ・愛媛オリジナル品種（紅まどんな、甘平）としてのブランド化へ向けた高品質安定生産及び愛媛チームとしての販売体制の確立を目指す。

— ビジネスモデル品目目標(平成25～27年度) —

・紅まどんな	(生産)	120ha ⇒ 150ha
	(販売)	1,300 t ⇒ 2,000 t
・甘平	(生産)	130ha ⇒ 160ha
	(販売)	700 t ⇒ 2,000 t

生産資材部門による
課題解決への提案

TAC県域チームによる
部門間調整

縦横のつながりを重視した実直な現場対応力強化

JA営農・販売・購買担当者ならびに
JATACによる現場対応



▲「紅まどんな」選果目あわせ会

体制の確立、②企画販売の積極的な提案推進による販路拡大、知名度向上による有利販売に取り組みます。

① 「紅まどんな」

雨よけ等施設化による成熟期（10月下旬以降）の果皮障害防止対策、早期摘果及び灌水による肥大促進、8月下旬以降の節水管理による品質向上対策を進めます。

② 「甘平」

開花期から9月中旬頃までの土壌乾燥防止による裂果軽減（2割3割未満）対策、適正着果量（12果/m²）を目安に時期ごとのタイムリーな摘果による樹勢維持及び隔年結果防止対策を進めます。また、販売対策として、糖度基準のアップによるブランド力向上に取り組みます。

今

回はビジネスモデルの取り組みを紹介しましたが、「トータルアグリード事業」米麦・野菜花卉・果実では、ビジネスモデルのほか、県域戦略品目・基幹品目、重点対策品目・地域振興品目等を設定し、生産振興・販売対策、資材対策等総合的に取り組みを進めます。

取り組みにあたっては、JA営農振興計画を踏まえて、JAとの協議により推進品目の絞り込み（選定）を行うとともに、JAとJA全農えひめの担当者及びTACが連携を密にし、品目ごとの課題抽出を行い、各重要領を活用しながら一体となって目標達成に向けて取り組んでいきますので、ご理解と協力をお願いします。

THE

ねとわーく

「愛媛産かんきつをPRしていただく」 2013愛媛みかん大使を募集

果実課

JA全農えひめは、「果樹王国えひめ」のみかん・伊予柑キャンペーンをはじめ愛媛産果実の消費宣伝活動に協力していただく『2013愛媛みかん大使』4



▶2012愛媛みかん大使の皆さん

人を募集します。みかん大使による消費宣伝活動は昭和34年度から実施しており、今回が55回目となります。

◆応募資格

- ① 愛媛県内在住の18歳以上（高校生は除く）の元気で明るく好感の持てる方。
- ② モデルなど特定の会社や団体等と専属契約していない方で、他のコンテストに選出されていない方。
- ③ 愛媛県産果実の消費宣伝キャンペーン等の活動に必ず参加でき、明朗・快活で表現力豊かな方。
- ④ 勤務先・学校等の理解と協力が得られ、愛媛みかん大使として年間活動できる方。

◆応募方法

- ① 所定の応募用紙または既存の履歴書等に必要事項を記入のうえ、サービス判程度の上半身の写真を添えて、応募先まで郵送ください。

- ② 応募用紙は、県内JA・JA全農えひめ・リジエール松山・各テレビ局・愛媛新聞社・各大学・専門学校の受付等に置いてあります。また、JA全農えひめホームページからも印刷できます。

※応募書類・写真は返却しません。

◆募集期間

- ① 平成25年6月10日（月）～7月19日（金）（当日消印有効）

◆審査方法

- ① 事前審査（書類審査）
7月25日（木）
※事前審査の結果は、直接ご本人に連絡します。
- ② 最終審査（面接審査）
8月7日、リジエール松山で面接審査を行い、4人を選考。
JA全農えひめ、愛媛県果樹研究同志会長、女性果樹同志会長、マスコミ関係者らが審査します。
※最終審査の結果は、8月中旬に直接ご本人に連絡します。

◆任命式（8月22日）

関係者による任命式を行い、マスコミに発表します。

◆副賞ならびにプレゼント

- ① 愛媛みかん大使（4人）
委嘱料20万円を進呈します。
- ② 最終審査出席者全員

書類審査に合格し最終審査に出席いただいた方には、交通費と愛媛の柑橘ジュースを進呈します。

◆『愛媛みかん大使』の活動

- ① 任期
平成25年9月～26年8月末

- ② 活動内容
全国各地での表敬訪問、テレビ・各種イベント出演、試食宣伝キャンペーン等への参加（日当・交通費・制服一式を支給）。

- ③ キャンペーンスケジュール
11月（みかん）
東京・大阪
1～2月（伊予柑）
東京・大阪・北海道他
4月
「オレンジデー」関連イベント

応募先・問い合わせ

〒790-8555

松山市南堀端町2番地3

JA全農えひめ果実課

愛媛みかん大使募集係

Tel089-948-5484

【ホームページアドレス】

<http://www.eh.zennoh.or.jp>

（6月10日公開予定）

夏秋野菜出荷協議会を開催 共販量は前年比106%を計画

菜 課 野 花 卉

J A全農えひめ野菜
花卉課は、4月23日、
松山市のJ A愛媛別館
で「平成25年産夏秋野
菜出荷協議会」を開き、主力13品目
の販売基本方針を決めました。

栽培面積は、全体で前年比98%の
266ha。共販量は、全体では前年
比106%の1万2,525tを計
画しています（表参照）。

《販売基本方針》

① 多元的販売の取り組み強化

東日本産地等の京阪神市場への出
荷ウエイト増や風評被害などの販売
環境を踏まえ、パートナー卸売市場
と連携をさらに強化し、契約的な取
引拡大による安定販売を進めます。
「えひめ野菜」の売り場確保に向
けて、市場および県内外の量販店等
との結びつき販売の拡充を進めます。

② 販売促進活動の強化

県内各産地の夏秋野菜が出揃う7
月を「えひめフェア」強化月間とし、
対面型販売の計画実施により、「え
ひめ野菜」の早期棚確保に努めます。
出荷最盛期においては、食べ方提
案など試食宣伝の実施により、「え
ひめ野菜」の知名度向上と購入促進
を図り、棚の長期確保に努めます。

また、「えひめ野菜販売協力店」

また、県内各産地の特色を活かし
た品目提案を強化し、販売先・消費
者からの支持拡大に努めます。
多様な実需者ニーズに対応し、出
荷形態・荷姿の検討を行います。

また、品目別課題等に対する取り
組みとともに、愛媛チーム事業方式
の拡充を図って生産・販売・購買対
策を講じます。県・種苗会社等関係
機関と連携し、品目ごとに栽培講習
会や現地研修会を開催します。

④ 安全・安心への取り組み

生産情報（概況・出荷計画）など
情報発信の強化により信頼される産
地をめざします。また、農薬適正使
用・履歴記帳の徹底、出荷資材・販
売資材における適正表示のチェック
など危機管理体制の強化を図ります。

《市場からの主要要望項目》

① 栽培面積の維持・拡大による出
荷量の確保（ロットの拡大）。

② 長期安定出荷（施設化・気象災
害に強い産地づくり）。※きゅう
りは全国的な抑制産地の減少で9
月は品薄傾向。

③ 適期収穫と品質・食味の安定化
対策（個人間・J A間格差の是正、
棚もちの向上）。

④ 高温時の鮮度保持（予冷の徹底）。
⑤ 精度の高い産地・出荷情報の発信。
⑥ 選果選別の徹底。

⑦ 出荷状況に応じた効果的な販促
の実施。

⑧ 規格・出荷資材の統一。

平成25年産 夏秋野菜出荷計画表

（単位：ha、トン、%）

品 目	出荷計画		前年比（%）	
	面積	共販量	面積	共販量
きゅうり	86.1	5,394	103	107
一寸蚕豆	34.2	407	86	110
枝 豆	14.4	90	102	107
インゲン	17.2	106	102	98
生 椎 茸		450		102
ト マ ト	34.4	2,758	101	111
ミニトマト	7.0	286	97	109
ピーマン	20.1	1,071	94	108
伊予なす	16.0	1,152	100	104
松山長なす	4.6	260	90	104
絹かわなす	2.3	206	65	70
メ ロ ン	8.1	53	103	153
アスパラガス	21.8	293	98	105
合 計	266.2	12,525	98	106

果菜類など県域主要品目を核とし
た生産振興対策を講じ、生産基盤強
化・拡充を図るとともに、パートナー
卸売市場への計画安定出荷体制の確
立に努め、販売先・消費者に支持さ
れる産地づくりに取り組みます。

③ 「トータルアグリッド事業」等 による産地振興

果菜類など県域主要品目を核とし
た生産振興対策を講じ、生産基盤強
化・拡充を図るとともに、パートナー
卸売市場への計画安定出荷体制の確
立に努め、販売先・消費者に支持さ
れる産地づくりに取り組みます。

「JAオリジナル住宅プレミアム エコキャンペーン実施中！」

施設 農住課

『JAホーム』では、社会的に地球温暖化防止対策が進む中で、地球環境にやさしい取り組みとして、「はじめませんか？省エネ住宅でエコライフ。」をキャッチコピーに、平成25年12月30日まで、「JAオリジナル住宅プレミアムエコキャンペーン」を実施しています。

キャンペーン内容

キャンペーン期間中に、企画型オリジナル住宅「Age（エイジ）」または「イーズマインド」をご成約いただいた方に、①ヒートポンプ給湯器「エコキュート460ℓ」、②遮熱ガラスグレードアップをプレゼントします。

なお、「IHクッキングヒーター付システムキッチン」を標準装備（シンブラタイプはガスコンロ）しており、オプション工事として、太陽光発電システムも装備することができます。

期間中、県内JA・JA全農えひめでは、テレビCM、キャンペーンチラシや広報誌等を通じてPRに努

めていきます。

【契約条件】

- ① 施工坪30坪以上。
- ② 県内で建築することのできる物件、もしくは土地を取得予定の方。
- ③ キャンペーン期間中の契約で、原則として平成26年3月末までに着工できる物件。
- ④ JA全農えひめの住宅取扱要領に合致していること。

リフォーム推進活動も展開中

『JAホーム』では、同時に、「リフォーム推進活動」も展開しています。住まいの中で傷みややすいバス・キッチン・トイレをはじめ、外壁や屋根の塗装など、住まいのお悩みを解決しながら、ご希望に沿った最適なプランを提案し、お手ごろ価格で快適な暮らしを応援します。

新築・増改築など住まいに関する相談・お問い合わせは、最寄りのJA住宅担当窓口、またはJA全農えひめ施設農住課（☎089-948-5473）まで、お気軽にお問い合わせください。

はじめませんか？省エネ住宅でエコライフ。

JAオリジナル住宅

プレミアムエコキャンペーン

2013年4月1日～12月30日 ※2014年3月31日までに竣工した方に限りです。



**エコキュート
460ℓ**

光熱費がお得！
地球環境にもやさしい
給湯システム。

**W
プレゼント！**



**遮熱ガラスグレード
アップ**

冷暖房効率
グ～ンとアップで
エコロジー＆経済的！



期間中、ご成約の方に、

JA/JA全農 お問い合わせは JA全農えひめ 生産資材部 施設農住課 TEL (089) 948-5473 または JA窓口まで

統計BOX

自給率目標達成のため、大豆の作付け拡大を —平成24年産大豆(乾燥子実)の収穫量(全国農業地域別・都道府県別)結果から—

平 成25年産の「経営所得安定対策」が実施されています。本

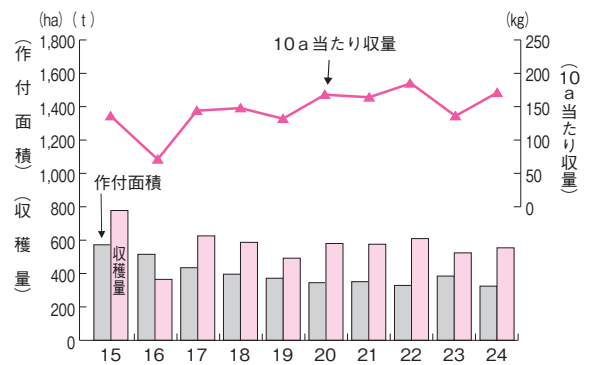
対策は、販売価格が生産費を恒常的に下回っている作物を対象として、その差額を交付することにより、農業経営の安定と国内生産力の確保を図るとともに、麦・大豆等への作付転換を促すことを目的としています。そこで今月は、「経営所得安定対策」で対象作物となっている、日本の食卓に欠かすことのできない大豆について見ていきたいと思います。

愛媛の大豆の収穫量は 前年産に比べ増加

平成24年産大豆の全国の作付面積は13万1,100 haで、前年産に比べて5,600 ha(4%)減少しました。収穫量は、天候に恵まれ生育がおおむね良好であったことから、10 a当たり収量が前年産を20 kg(13%)上回り180 kgとなったため、前年産に比べて1万7,100 t(8%)増加し、23万5,900 tとなりました。

愛媛県の作付面積は324 haで、前年産に比べ61 ha(16%)減少しました。10 a当たり収量が171 kgと、

図1 大豆の作付面積、収穫量及び10 a当たり収量
(愛媛県)



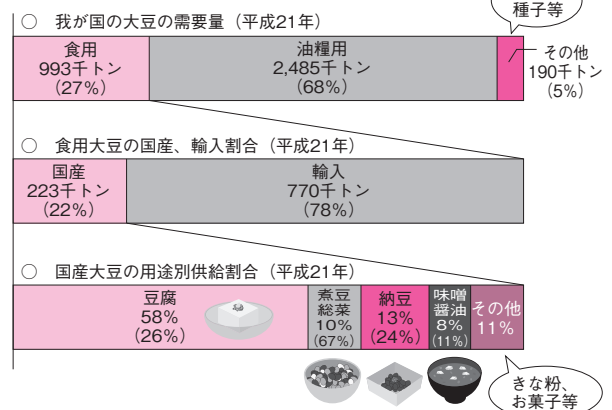
資料：農林水産省統計部「作物統計調査」

国産大豆は、ほぼ全量が 食品用向けに供給される

前年産に比べて35 kg(26%)増加したため、収穫量は、前年産に比べて30 t(6%)増加し、554 tとなりました(図1)。

わが国の大豆の需要量は、油糧用について国際価格の高騰の影響によりなたね油に移行したため、近年は400万tを下回っています。平成21年度の需要量は366万8,000 tで、うち食用は99万3,000 t(27%)です。食用大豆の供給の内訳は、国産が22

図2 大豆の需要動向



注：() 内は各用途における国産シェアである。
資料：農林水産省生産局調べ

万3,000 t(22%)、輸入が77万 t(78%)となっていますが、国産大豆は味の良さ、安心感等が評価されており、ほぼ全量が豆腐、煮豆、納豆等の食品用向けとなっています(図2)。

近年の国際的な穀物需給の逼迫等に対応し、国産農産物の安定供給体制の確立が求められていることから、農業者の作付け意欲を高め、大豆の生産性及び品質の向上や作付けの拡大を推進し、国内生産力を確保することが重要です。

中国四国農政局
松山地域センター 農政推進グループ



五木ひろしさんと ア・ラ・モード

昨年(2010年)の1月にソレは突然やってきました。

まったく面識のない、歌手の五木ひろしさんの事務所から「歌をつくってほしい」といった内容のメールです。東京の私の所属事務所に「五木さんの名を語るいたずらメールが入っていたけれど、一応確認しておいて」と報告。その後、「本当みたいよ」と連絡を受けて大騒ぎです。

私のメジャーデビューは2010年、つい最近のことです。それまで地元・四国中心のコンサート活動や地元の歌をつくったり。今治市の関前・岡村島と広島県呉市間の安芸灘とびしま海道のイメージソング、「島の方々が元氣の出るような歌を」と頼まれたときにも特にメジャーを目指すつもりはなく、「安芸灘の風」をインディーズ(自主)制作。歌を聞いた中央の音楽業界

の方が「いいんじゃないか」と有線放送で反応を見たところ、演歌お問合せランキングで史上初の4ヶ月連続1位となりました。そうしたことなきつかけにメジャーデビューとなり、その年に第43回日本有線大賞「新人賞」「有線問い合せ賞」をW受賞。翌年、2作目の「雨のミッドナイトステーション」で第44回日本有線大賞「ロングリクエスト賞」を受賞。第44回日本作詞大賞にノミネートされ、出演したテレビを見ていた五木さんが「いい曲をつくるなあ」と。見初められたようです。デビュー2年、まだ2作目の私に、です。嬉しさ半分、プレッシャー半分。

五木さんからの要望は、タイトル名が「夜明けのブルース」、曲調はデビュー曲「よこはま・たそがれ」のようなポップスっぽいものを。私は、どこに行っても「コレだよな」と言われ

レーモンド松屋

RAYMOND MATSUYA

西条市出身、在住。1951(昭和26)年2月11日生まれ。シンガーソングライター。高校時代よりバンド活動を開始。卒業後、上京し音楽学校で学び、帰省。地元で音楽以外の仕事の傍ら、四国を拠点に音楽活動を行う。1980年、NHKテレビ「ヤングミュージックショー」中四国代表で出演。40歳で脱サラ、音楽関連の仕事の主軸にする。旧東予市の喜左衛門まつりのテーマ曲「喜左衛門参上」、徳島県海陽町竹ヶ島のイメージソング「竹ヶ島さようも晴」、「来島海峡」など多数制作。2008年「安芸灘の風」をインディーズで発売。2010年ユニバーサルミュージックよりメジャーデビュー。以後、第43回日本有線大賞「新人賞」「有線問い合せ賞」、第44回日本作詞大賞「入賞」、第44回日本有線大賞「ロングリクエスト賞」、第22回NAK日本流行歌大賞「新人賞」、第54回日本レコード大賞「作曲賞」、2013年愛媛(えがわ)のえひめ文化・スポーツ賞「特別賞」等、受賞多数。五木ひろしさんに「夜明けのブルース」「芙美子」「博多ア・ラ・モード」提供。

現在もキーボード奏者とのユニット「レーモンド松屋&クニコ」でコンサート、ファンの集い等、地元で精力的に活動する。レーモンド松屋の4枚目シングル「東京パラダイス」(6月5日発売予定)はNHKラジオの番組「ラジオ深夜便」内「深夜便のうた」で4月~6月放送。



▲ライブでは「レーモンド松屋 & クニコ」で活動する

る松山の歌を作りたいと思っていました。五木さんの本名が松山数夫^{かずお}さんという「松山」つながりの偶然のラッキーも重なって、松山・二番町をモチーフに出来上がった曲は一発OK。4月1日からNHKラジオの「ラジオ深夜便のうた」で流れ続け、音楽ヒットチャートも急上昇、大ヒットへとつながって

いきます。
年末には「夜明けのブルース」で第54回日本レコード大賞の「作曲賞」をいただきました。特別に私の身近な生活が変わったわけではありませんが、がむしゃらに演奏活動をやってきた若かりし頃から今まで貫いてきた音楽が認められたという自覚や安堵感、喜び



は何にも勝るものでした。

今度は五木さんから「福岡・博多に後援会が立ち上がり、来春早々に博多座公演もあるので、博多のご当地ソングを引き続き歌いたい」と頼まれました。急きよ、博多取材で中洲、天神の繁華街はじめ、広く歌の材料をピックアップして戻り、半月後。大阪のディナーショーの再会で、「実は」と、つくったデモテープを渡すと、「えっ！ もう!?」と、ビックリされると同時にとても喜ばれ、早速リハールの合間に聞かれたようです。

「博多ア・ラ・モード」。その名を聞いたスタッフみんなが笑ったタイトルは、「怒られへんかな、ちゃらちゃらしてると…」気が気でない心持ちです。ステージ袖で目と目が合うと「グウです!」。即答に、「ホッ!」と、肩の力が抜けました。

「最新の、流行の、洗練された」の意味でつけた「ア・ラ・モード」。4月の新曲発表会に同席すると、「博多ア・ラ・モード」なるお菓子の詰め合わせがすでに完成していました。お菓子同様に歌の方も幸先の良いスタートを切り絶好調をキープ中で、私も「よかったな」と、本当に嬉しい限りです。

●25年度第1回系統経済事業意見交換会

J A代表者と系統経済事業の連携・推進に向け意見交換行う

J A全農えひめは、県内J A代表者の声を事業運営に反映させようと、4月23日、J A愛媛で、今年度1回目の「系統経済事業意見交換会」を開きました。

会議には、県内12J Aの経営管理委員会会長、代表理事組合長・理事長のほか、J A全農本所から鈴木盛夫常務、愛媛県本部から豊田明夫運営委員会副会長と部長以上の幹部職員、グループ会社の社長などが出席。事業概況と「3か年計画」等事業重点施策、25年度からスタートした「トータルアグリード事業」について説明後、意見交換を行いました。

J A代表者からは、「円安とTPP問題への対応」「事業計画の達成」「産地維持に向けた農家の手取り向上対策」「県域一体での野菜・果実の販売」「総物流など物流改革による資材コスト低減」「資材コスト低減の一層の取組強化」「飼料価格高騰への支援対策」「高齢者等のくらし



を守る生活事業の支援対策」などについて要望・提案が出され、全農本所・愛媛県本部からそれぞれ対応状況と対策等を説明。最後に諏訪玄県本部長が、「農家・組合員の負託にこたえるため、目標の共有化、出向く営業・営農、事業の見える化等を徹底し、事業計画の目標達成と攻めの農業を推進していきたい」とあいさつしました。

●愛媛県果樹同志会 第29回合同総会

牛川会長と井上会長ほか役員体制決める～TPP断固反対に関する特別決議を採択

愛媛県果樹研究同志会と愛媛県女性果樹同志会は、5月16日松山市のJ A愛媛別館で第29回合同総会を開き、牛川慎吾果樹研究同志会長（南予果樹研究同志会・再任）、井上久美女性果樹同志会長（西宇和女性果樹同志会・再任）ほか、平成25年度の役員体制と事業計画、TPP断固反対に関する特別決議を採択しました。

25年度事業計画では、隔年結果是正対策と高品質安定生産を最重点課題とし、関係団体と連携し果樹産地構造改革計画の実践と果樹経営支援対策事業の有効活用等に取り組むことを確認しました。また、新役員を代表して牛川会長が、「会員と共に歩む同志会として、皆さんの意見を聞きながら新たな気持ちで、組織づくりと活動を進めていきたい」とあいさつしました。

25年度の役員は次のとおり（敬称略・カッコ内は所属組織）。【果樹研究同志会】▽会長＝牛川慎吾（南予・再）▽副会長＝松浦喜孝（西宇和・



再）、石橋仁志（えひめ中央・再）▽監事＝菊池政弘（西宇和・再）、和田庄司（えひめ中央・再）、玉川隆則（愛媛たいき・新）

【女性果樹同志会】会長＝井上久美（西宇和・再）▽副会長＝岡田孝子（南予・再）、有田恵子（えひめ中央・再）▽監事＝青井和子（えひめ中央・再）、長木真由美（南予・再）、戎居和子（えひめ中央・新）

なんでもBOX

●えひめの食販売推進統括本部

「愛のくにえひめ営業本部」との連携を強化！

J A全農えひめは、「えひめの食」商品の販路開拓を推進するため、部門間連携・横断による推進体制として、「えひめの食販売推進統括本部」（統括本部長＝高橋勉 J A全農えひめ副本部長）を設置し、愛媛県「愛のくにえひめ営業本部」（加藤龍彦営業本部長）との連携強化により、えひめブランドのイメージアップや販売促進等に取り組むことにしています。

5月7日には、両本部のメンバーなど36人が集まり、連携強化にむけて、第1回「事業連携打ち合わせ会」を開催しました。

会では、両本部の概要と取り組みを報告した後、事業・品目別に連携強化に向けて具体策を提案しながら意見交換しました。



今後は、両本部が愛媛産農畜産物の販売拡大と農家の経営安定という共通の目的に向けて、全体会議や事業別検討会、事務局会を開催する中、目標額等を設定し進捗状況の確認や具体策の検討・調整を進めていきます。

●第48回えひめ花まつり「花のコンクール」

デルフィニウム等を展示しPR

5月3日・4日の2日間、東温市の愛媛県農林水産研究所農業研究部花き研究指導室で、第48回「えひめ花まつり」が開かれ、J A全農えひめも会場内でデルフィニウムなどの花を展示しました。



この催しは、花に親しんでもらい花の消費拡大につなげようと、毎年開かれているもの。花と緑にふれあう様々な催しに大勢の来場者で賑わいました。また、5月3日には、「えひめ花まつり花のコンクール」表彰式が行われ、J A全農えひめを通じてデルフィニウムを出品した寺田嘉明さん（J A周桑）が中国四国農政局長賞を受賞しました。

J A全農えひめ関係の主な受賞者は次の皆さん（敬称略。カッコ内はJ A名）。▽愛媛新聞社長賞＝阿部真次郎（おちいまばり）▽あいテレビ社長賞＝長井利幸▽全農愛媛県本部長賞＝上田武志（愛媛たいき）▽丸今青果(株)社長賞＝堀本幸雄（同）

●第18回 愛媛県子牛品評会

県知事賞に村上さん、矢野さん

J A全農えひめは、4月18日、西予市野村畜産総合振興センターで「第18回愛媛県子牛品評会」を開き、優等賞（県知事賞）に雌の部で村上克也さん（J Aひがしうわ）の出品牛「なぎさ」、去勢の部は矢野隆俊さん（J A愛媛たいき）の「金栄」が選ばれました。

品評会には、生後1年未満の県内産黒毛和種143頭（雌牛の部59頭、去勢の部84頭）が出品され、月齢に見合う発育をしているか、体積、子牛としてのバランス、資質、品位などを基準に審査し、各賞が決まりました。

品評会後は、今年度第1回の和子牛臨時市場を開き、140頭を販売。1頭あたり平均販売額は雌が354,103（前回〈2月〉比197円安）、去勢が424,097円（同比5,925円安）でした。

その他の入賞者は次の皆さんです（カッコ内はJ A名）。【雌の部】▽1等賞＝井上勉さん（ひがしうわ）、藤原輝明さん（同）【去勢の部】▽1等賞＝宮本賢吾さん（ひがしうわ）、池田一成さん（えひめ南）



▲去勢の部で県知事賞の矢野さんと「金栄」



インフォメーション さわやか市

- TEL/0895-32-2381
- 営/9:30~19:30 (11~2月は19:00)
- 休/無休
- 住/宇和島市津島町岩松682
Aコープつしま店内

さわやか市 ~Aコープつしま店~

温暖な風土、あたたかい人柄が育てた農産物で産地と食卓をつなぎます



▲出荷会員は定員約40名、後には会員待ちの方も控えている「さわやか市」は徐々にスペースを広げている



岡本 弘さん
(Aコープつしま店 店長)

「JAグループのらしさが生きた『さわやか市』です。春から夏にかけては晩柄類からカラフルな野菜まで、色彩も豊かなコーナーになっています」

14年ほど前に近くに競合店が出店することになり、「JA店舗の特色を生かした店づくり」として「さわやか市」が始まりました。出荷者は宇和島市津島町内の生産者約40名。野菜、果物、花き、加工品が並ぶコーナーに多くのお客様が早朝から来店、目当ての生産者の農産物を力ゴいっばいに買われるなど、なくてはならないコーナーとなっています。夏場は種類・量ともに増え、トマト、ナス、キュウリ、カボチャなどの夏野菜、スイカにイチジク、ハウスミカンも出てきます。折々に色白レンコンや、緑色ナス、赤い大根、ハーブやニンニクの芽などの珍しいもの、サツマイモの苗では「争奪戦」が繰り広げられます。「新鮮で、品がよくて、安い」とお客様の評価も高く、現在の広さは約30㎡。今後は端境期も商品を充実させられるよう生産者と協力しつつ、さらに拡充を目指していきます。

農

家と店と連携し 盛り上げていく



▲調味料コーナーには地元女性グループの手づくり加工品も並ぶ。「さわやか市」の後は店内もチェック！

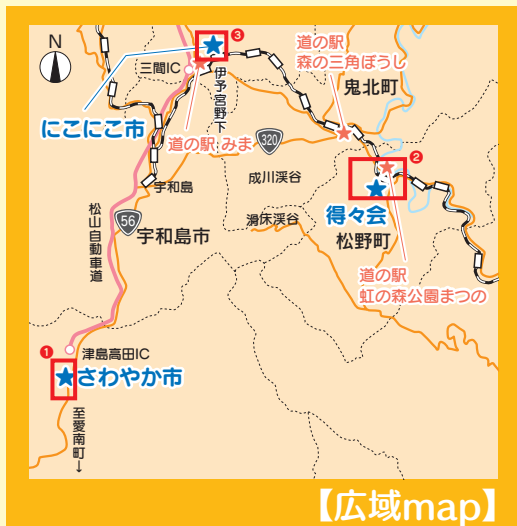
憩

ちょっと、寄ってみて！

Aコープつしま店の隣にはJAえひめ南津島支所女性部が運営する立ち寄りスポット「よんさいや」があります。軽食やドリンクでひと休み、かわいい手づくり小物も並んでいます。買い物帰り、通院途中、バス待ちにと、様々な人が利用する地域の交流拠点です。



▲気さくなスタッフとの会話も楽しい憩いの場





インフォメーション 得々会

- Tel/0895-42-1661
- 営/9:30~19:00 (10~3月は18:30)
- 休/無休
- 住/北宇和郡松野町松丸314
Aコープ松野店内



富永 竜二さん

(Aコープ松野店 青果、生産者コーナー担当)

「鬼北地方の原木を使った生椎茸、木成りの完熟ミニトマトなど、産直ならではの松野の味をどうぞお召し上がりください」



▲入口の前にはおトクな地元産・得々会の農産物



▲店内には地元の鬼北茶が並ぶ

得々会 ~Aコープ松野店~

森の国で採れました! 特別・お得な【トク×トク】産直コーナー

Aコープみま店の「にこにこ市」をきっかけに、Aコープ松野店にも直売コーナーを作るうと生産者が提案。平成17年に始まった「得々会」は、設立当初から会を引っ張っている竹葉会長以下13名の松野町産農産物を販売しています。中山間地の特徴を生かした椎茸やユズ、梅、桃、茶、甘みののったミニトマトなどは殊更におススメ。5㎡とスペースに限りがあるので鮮度のいいものが早く回転していきます。

新緑エキスタっぷり
いきいき新鮮農作物



② 【ピンポイントmap】



インフォメーション にこにこ市

- Tel/0895-58-2440
- 営/9:30~19:00
- 休/無休
- 住/宇和島市三間町宮野下525
Aコープみま店内

にこにこ市 ~Aコープみま店~

高速道路開通でひとつ走り、三間。日常づかいの旬野菜がもっと身近に



大根 加代さん

(Aコープみま店 レジ担当)

「私、大根（おおね）が持っている大根のように（笑）、元気の野菜がそろっています。当店はJR宮野下駅から徒歩1分。花咲き、お遍路さんが行き交う三間へはJR予土線でコトコト揺られて来るのも楽しいですよ。散策がてらお立ち寄りください」

高速道路三間ICから車で約5分のAコープみま店。店内は地元・宇和島市三間町の生産者32名による約25㎡の「にこにこ市」があります。店頭で不定期に行っていた産直市は、平成16年6月にAコープみま店で部会を立ち上げインショップとなりました。開設当初からの「お客様に喜んでもらおう、盛り上げよう」という熱心な部会員の方々の情熱で現在に至っています。ニコニコ元気な生産者の農産物には勢いがあります。Aコープ従業員もニコニコ笑顔の接客を心がけ、つられてお客様も思わずニコニコ。心ふれあい、顔が見えるおつきあいが長く続くコーナーです。



▲夏場はホウレンソウなどの葉物野菜、キュウリにトマトにコーンにスイカ、ブドウもおいしい。四万十川の上流・三間川が流れる肥沃な三間盆地の恵みがいっぱい



▲三間町はかつて、玉ネギの県指定産地。今もシャキシャキ、甘い玉ネギが年中並び



▲まじめな生産者の気持ちにジーンとくる「わけありきよみ」。思わず手が出る「雨ニモ風ニモ負けずレモン」（負けないで〜!!）

にこやか笑顔で
お出迎え



③ 【ピンポイントmap】



●オレンジデーの取り組みはとってもいいと思います。松山空港のボンジュース蛇口はニュースにも取り上げられ、全国的に有名になりましたが、愛媛のみかんの美味しさをもっと積極的に全国に発信してもらいたい機会になればと思います。

(松前町・仙波 比佐子さん)

●ニュースで紹介されたエコーブマーク品共同購入研修会。最近ではCMやニュースでも「ネットスーパー」など宅配型のサービスをよく耳にします。「JAくらしの宅配便」はそういうサービスなんですか？ 共働きの世帯が多いので、需要がありそうですね。

(松山市・中平 寛子さん)

★編集部より：「JAくらしの宅配便」は、昨年10月号で紹介しましたが、約1000アイテムのカatalog商品の中から、パソコンや携帯電話のサイトから24時間、365日注文を受け付け、数日中にご自宅や指定の場所に配送するシステムです。また、パソコンがなくても注文書に記入してJA窓口を持ち込めば注文できるなど、注文方法を選べるのも特徴です。今後は、取り組みJAも順次拡大しますので、詳しくは最寄りのJAにお問い合わせください。

●ふるさとエッセーを読んで。私はいつもポジティブに生きております。知らない間に笑顔が出て、なぜか楽しい気持ちになります。父親はネガティブ、母親はポジティブと正反対ですが、私は母親似だと思っています。「笑顔は幸せの魔法」と私も思います。これからも毎日笑顔で生きていきたいです。

(松山市・北原 里香さん)

●藤崎さんの「笑顔は幸せの魔法なのです！」を読み、日々の仕事、私生活を振り返り反省させられる所が往々にしてありました。ふと私が入社した頃の会社のスローガンを思い出しました。「あなたの笑顔も小さな親切」でした。笑顔は、お客様だけでなく、自分自身の幸せのためにもあるのですね。

(今治市・阿部 節男さん)

●五月晴れの日に、子どもと一緒にウォーキングをしていた途中で、私たちと反対側の歩道を二列に並んで元気よく歩いてきた大勢の中学生に会いました。笑顔で「おはようございます」とあいさつすると、大きな声で行列の最初から最後まで「おはようございます」と響き渡りました。このような学生さんたちであれば、「いじめ」等ないだろうなど、ふっと頭をよぎりました。あいさつというのは相手を喜ばしてくれて幸せにしてくれるものだったのです。元気な若い子どもたちからパワーを一杯いただいた1日でした。

(西条市・近藤 明美さん)

●TTP問題について。農家でありながらTTPに賛成する人もいます。これは本当にTTPについて理解されていないためです。TTPに参加・加入すれば、農民は大変なことになります。周知徹底してほしいと考えます。

(大洲市・濱田 長男さん)

●先日、JA周桑の直売所「周ちゃん広場」でリアル感謝祭が行われ、たくさんのお客様で賑わいました。当日は、周ちゃんのゆるキャラも初お披露目で、県内のゆるキャラたちも大集合し、子どもたちも大喜びでした。「周ちゃん広場」もリアルとして売り場が大きくなり、カフェスペースもできたので、ぜひお越しください。

(西条市・竹中 由香里さん)

イベント情報



■「ちびっこ限定野菜すくい」

◇日時：平成25年6月22日(土)10:00～15:00
◇場所：JA愛媛たいき「たいき産直市 愛たい菜」
◇内容：水に浮かべたトマトやキュウリなどの夏野菜をすくう、ちびっこ限定のイベントです。1回100円。求む、挑戦者！
※読者・JAから提供のあったイベントを紹介しします。

今月のクイズ

6月10日から2013愛媛みかん大使の募集を開始します。みかん大使による消費宣伝活動は、何回目になるのでしょうか？

【○○回】

プレゼント

クイズに正解した方の中から抽選で、図書カード1,000円分を10名様にさしあげます。

応募方法

折り込みハガキにクイズの答えと本誌に対するご意見・感想などをお書き添えの上、ご郵送ください。



締切り

平成25年7月17日(当日消印有効)

発表

「あぐりうど」8月号で発表します。

当選者発表

4月号の答えは「4月14日」でした。たくさんのお便りありがとうございました。厳正な抽選の結果、次の10の方に図書カード1,000円分をお送りします。

渡部 奏美さん(松山市)	田上 満代さん(八幡浜市)
土居 栄次さん(松前町)	大西コズエさん(四国中央市)
岡林 眞弓さん(今治市)	益崎 君枝さん(上島町)
別府 仁吾さん(今治市)	村越久美子さん(今治市)
武田 五月さん(西条市)	松本 信哉さん(久万高原町)

編集後記

★今年も東温市のJAグリーンえひめが隣接するれんげ畑を無料で開放し、5月8日には、元の幼稚園回り、首飾りなど、れんげ畑を満喫して遊びを減らした中、南吉井保育所の玉乃井京子所長が、「子どもたちが自然の中で一緒に遊ぶのがいい思い出になるだろう」とおっしゃっていましたが、子どもたちが元気に駆け回ることに残していきたいものです。(正直)

NOW NOW

COOKING

今月の素材

枝豆



「畑のエメラルド」で、
暑い夏を乗り切ろう

▶ (左) 枝豆エスニック、(後方) 枝豆オイル漬け、(右) 枝豆と大根のたらこ和え



指導／学校法人愛媛学園（愛媛調理製菓専門学校）大西 望先生

枝豆エスニック

〈材料・4人分〉 ※1人あたり約83kcal

枝豆（さや付）	150 g
塩	少々
醤油	大さじ3
豆板醤	小さじ1
ニンニク（みじん切り）	小さじ1
④ ショウガ（みじん切り）	大さじ1
長ネギ（みじん切り）	1/3本
ゴマ油	小さじ2
タカの爪	少々

〈作り方〉

- ① タカの爪は種を取り小口切りにし、④を合わせておく。
- ② 枝豆は塩でもんで産毛をとり、沸騰した湯で茹でて、ザルにとる。
- ③ ②が熱いうちに、①につける。

枝豆オイル漬け

〈材料・4人分〉 ※1回25 gで57kcal

枝豆（むき身）	200 g
ニンニク（みじん切り）	大さじ1
④ 塩	大さじ1/2
オリーブオイル	200 g

〈作り方〉

- ① 枝豆は茹でて、薄皮もとっておく。
- ② ④を混ぜ合わせて瓶（または密封容器）へ移し、①を一昼夜漬けておく。

※パスタ和え、炊き込みご飯にしたり、フランスパンなどにのせてサーモンやクリームチーズとあわせてもよい。

※1～2週間で食べきる。

枝豆と大根のたらこ和え

〈材料・4人分〉 ※1人あたり約66kcal

枝豆（むき身）	120 g
大根	100 g
たらこ	60 g
塩	少々

〈作り方〉

- ① 枝豆は茹でて、サヤから出す（薄皮もとる）。
- ② 大根は1 cm程度の角切りにし、塩をふってしんなりとしたら水気を切る。
- ③ ①と②をたらこで和える。

5月20日新発売！ 伯方塩業(株)「伯方の塩」とのコラボレート商品
POM 塩と夏みかん



【果汁10%未満】

490ml

900ml

『伯方の塩と瀬戸内で育った夏みかんを使用』

- ① 伯方の塩と瀬戸内産の夏みかんを使用した熱中対策にぴったりの飲料です。
- ② 体液とほぼ等しい浸透圧に仕上げたアイソトニックタイプの飲料です。
- ③ カロリーが気になる人もゴクゴク飲みやすい、カロリーオフ仕上げです。
- ④ 安心の原料で、お子様にも美味しく飲んでいただけます。

株式会社 えひめ飲料

〒791-8603 松山市安城寺町478番地 TEL:089-923-1500 FAX:089-924-0304
http://www.ehime-inryo.co.jp (通販専用)http://www.pom-j.com

はじめませんか? 省エネ住宅でエコライフ。



【イーズマインド】

JAオリジナル住宅

プレミアム エコキャンペーン



【エイジ】

2013年4月1日～12月30日 ※2014年3月31日まで
省エネ可能の方に限り。

エコキュート 460ℓ

光熱費がお得!
地球環境にもやさしい
給湯システム。



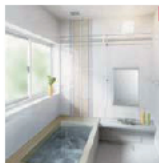
期間中、ご成約の方に、
Wプレゼント!

遮熱ガラスグレード アップ

冷暖房効率
グーんとアップで
エコロジー＆経済的!



117オームも 「基本は安心」 JAホームで。



バス

(こんな方に)
この際、快適な
システムバスに
したい。タイルが
ひび割れて、
水漏れが心配。



キッチン

(こんな方に)
IH、食器洗い等、
機能を充実
させたい。
流し廻りを
清潔に保ちたい。



トイレ

(こんな方に)
汲取りから
水洗便所に
したい。
座って楽な
洋便器にしたい。

新築から増改築まで、なんでもお気軽にご相談(無料)下さい。

一貫したトータルサービスで安心をお届けします。

まずはお気軽に
お電話ください。
専門の担当者が
ご相談に
お伺いします。

ご相談

見積り

契約

施工

完成お引き渡し

アフターサービス

お気軽に近くのJAホーム窓口までお問い合わせ下さい。



お近くのJA窓口へ

JA全農えひめ 生産資材部 施設農住課 TEL(089)948-5473

JA/JA全農